

16

未来創生葵塾

国境なき医師団 平井亜由子医師 「ガザでの活動から学ぶ国際援助」

12/15（月）放課後、国境なき医師団(MSF)所属の平井亜由子先生をお招きし、「ガザでの活動から学ぶ国際援助」を演題に、希望した生徒52名が聴講しました。今年の夏にパレスチナ自治区ガザを支援した際の現地の実情をお伝えいただき、さらに MSF では「医療支援」はもとより「証言活動」も大切な任務であるとお話しされており、平和の重要性を改めて感じる事ができました。



本校卒業生の平井亜由子医師

生徒感想

「激化している戦地で支援活動を行い、物資や食料が不足する危険と隣り合わせの困難な環境の中で命を救うために尽力する姿から医師としての強い使命感を感じました。どんなに厳しい状況でも患者さんのために最善を尽くすという姿勢は、医師を目指している自分にとって非常に心に響きました。普段ニュースでしか目にすることのないガザの戦争の現状を、平井先生のお話を通して知ることができ、世界で起きている問題を自分事として捉えるきっかけになりました。医師の方々をはじめとする多くの人の支援によって国境なき医師団の活動が成り立っていると知って、医療支援の大切さだけでなく、どのように支えあい、助け合っていくべきかを考えさせられました。今後も今回の講演で得た学びを胸に、社会貢献に対する意識を高めていきたいです。」

「国境のイメージもあまりなく、戦争・紛争に対してのイメージがどこか他人事だったので、話が後半になっていくにつれて自分がいかに恵まれているのかと思いました。講演の中で一番心に残っていることは、(ガザでの紛争で)国境なき医師団の従事者が殺害されてしまったことです。先生は、話を聞いただけの僕とは違い、顔見知りや死別されているのにも関わらず、死と隣り合わせの職場で戦い続ける姿に尊敬しました。パレスチナ問題の存在は知っていても、食料の配給所などで起こっている実情を知らない人は多いと思います。先生の話を知り、周りの人に話し広めることで、多くの人が戦争や紛争に関心を持ち、起こしてはいけないことだと強く認識するようなサイクルが作れると良いと思いました。」